

エコアクション21

環境経営レポート

(対象期間 2023 年 9 月 1 日～2024 年 8 月 31 日)



広沢工業株式会社

(発行日 2024 年 11 月 30 日)

目次

1. 組織の概要	P3～5
2. 対象範囲	P6
3. 環境経営方針	P7
4. 環境経営目標	P8～9
5. 環境経営計画	P10～11
6. 環境経営目標に対する実績	P12～17
7. 環境経営計画の取組と評価及び今後の取組	P18～20
8. 環境関連法規制等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟などの有無	P21
9. 当社の緊急事態対応訓練の状況	P22
10. 代表者による全体評価と見直しの結果	P23～25

1.組織の概要

当社は昭和 27 年 7 月創業し音響機器の板金機構部品から始まり複写機複合機や医療関連機器等の様々な精密板金プレス加工を行っております。

(1) 名称と代表者名

広沢工業株式会社
取締役社長 西館 信立

(2) 事業所の所在

秋田工場 〒010-1415 秋田県秋田市御所野湯本四丁目 1-1
TEL 018-839-4888 FAX 018-839-4224
本社 〒105-0013 東京都港区浜松町 浜離宮ザ・タワー3F
TEL 03-6452-8133 FAX 03-6452-8134

(3) 環境経営責任者及び担当者連絡先

環境経営責任者

工場長 渡部 裕樹

e-mail: yu-ki@hirosawa-kogyo.co.jp

本社営業担当者

営業次長 佐藤 和彦

e-mail: kazuhiko@hirosawa-kogyo.co.jp

(4) 事業内容

精密板金プレス

(5) 事業の規模

2024 年度

資本金 4,550 万円

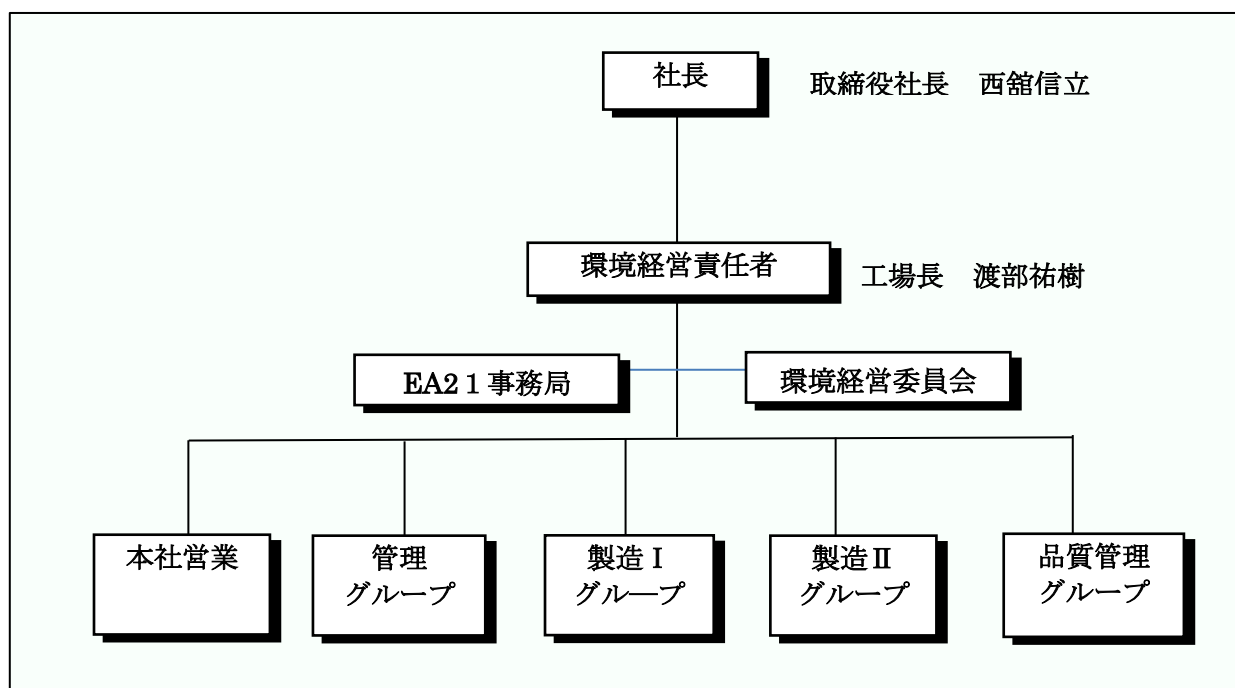
売上高 334 百万円

従業員数 26 名 (秋田工場 24 名 本社 2 名)

秋田工場床面積 1,985 m²

本社床面積 1.4 m²

[環境経営に関する組織]



3) 各々の職責は以下の表に示す。

組織体制	主 要 な 業 務
社長	(広沢工業(株)の環境経営システムに関する最高責任者) ・環境経営システムの実施及び管理に不可欠な資源の提供をする。 資源にはインフラストラクチャー、人的資源及び専門的な技能、技術並びに資金を含む。 ・環境経営方針を決定する。 ・環境経営責任者を任命し、環境経営委員会を通じて当社従業員全体に伝達する。 ・環境経営目標、環境経営マニュアル、環境活動計画、環境活動レポートを承認する。 ・エコアクション21の全体の評価と見直しを実施する。
環境経営責任者	(環境経営システムに関する管理責任者) ・環境経営システムの要求事項を確立し、実施し、且つ維持する。 ・実施計画とその実績フォローシートを承認する。 ・環境経営システムの実績、運用状況を社長へ報告する。 ・環境経営方針策定の補佐、又は環境経営方針を周知する。 ・環境負荷の自己チェックと取組項目の自己チェックを承認する 但し、環境への取組の自己チェックの結果は任意である ・法規制等の調査、特定及び法規制一覧を承認する。 ・環境経営委員会の議長を担当する。 ・教育計画を承認し、実施する。 ・内部、外部とのコミュニケーションに対応する。 および以下の事務局業務を行う。 ・環境経営委員が個々に果たした役割成果を取りまとめる。 ・定期的に環境負荷の自己チェックと取組項目の自己チェックの実施支援をする。 ・環境レポート原案を作成する。 ・文書管理(配付、原本)を行う。
事務局	・環境経営責任者を補佐する。
環境経営委員会	(環境経営システムに関する重要な事項を審議) ・環境経営方針、環境経営目標、実施計画等の環境経営システムに関する重要な事項を審議する。毎月サイトごとに実施する(前頁組織図を参照)
各グループ長	・各グループの環境経営計画を立て実施する。 ・自部門に法規制順守を行い、また、環境経営に関する教育をおこなう。

2. 対象範囲

(1) 対象事業所

事業者名	所在地	人員
秋田工場	秋田県秋田市御所野湯本 4-1-1	24 名
本社	東京都港区浜松町浜離宮ザ・タワー3F	2 名

2020 年度までは秋田工場サイトでの活動範囲でしたが 2021 年度より本社を含め
 広沢工業㈱全組織・全活動として取組みます。但し本社の環境負荷の状況が CO₂
 排出量で秋田工場の 1%以下であり危険物等の保管も無いことから本社の数値目標は設定しませ
 ん。

(2) 対象とする事業活動

複写機・医療機器及び金融機器等の内部板金部品の精密板金加工

(3) 設備状況

規模 秋田工場 用地面積 10,000 m² 建物面積 1,985 m²
 本社 床面積 1.4 m²

秋田工場設備

プレス工場	500 m ²	事務所/厚生	400 m ²
組立工場	325 m ²	流通倉庫	360 m ²
金型工場	200 m ²	他	200 m ²

主要設備	型式・能力	台数	主要設備	型式・能力	台数
クロスシャフトプレス	45t～200t	15	平面研削盤	MSG-250	1
自動平面バリ平滑機	MPDF-610	1	立型フライス盤	VB 型	1
シャーリング	SHS3X125	1	ボール盤	YGD-900	1
タッピングマシン	2 軸	1	コンターマシン	NCC-300	1
多軸タッピングマシン	12 軸	3	卓上ボール盤	NSD-13R 他	5
リベッティングマシン	BRI-101 他	3	三次元測定機	800SP	1
スポット溶接機	YR350CM2 他	3	TIG 溶接機	CHL-300 S 6	1

(4) レポートの対象期間

表紙に記載のとおり

(5) レポートの発行日

表紙に記載のとおり

3. 環境経営方針

環境経営方針

広沢工業株式会社は、金属加工技術の提供を通じ、市場及び社会に持続的に寄与するとともに、環境負荷の低減、環境貢献、従業員の幸福のため、経営における課題とチャンスを確認し、これらを環境の取り組みに反映し、環境経営の継続的改善を行います。

1. 具体的に次のことに取り組みます。
 - 1) 電気・燃料等のエネルギー使用量を低減します。
 - 2) 廃棄物の排出量を削減し、分別を徹底し、再資源化を推進します。
 - 3) 水の使用量を低減します。
 - 4) グリーン購入を推進します。
 - 5) 本業に即した改善活動を行います。
「製品品質及び工程品質の向上、生産効率の追求、
及び、職場環境の維持改善である 5S 活動推進」
2. 「環境関連法規制」や当社が約束した「その他の要求事項」を順守します。
3. この環境経営方針は全従業員に周知、徹底します。
4. 環境への取り組みを環境経営レポートとして取りまとめて公表します。

2016 年 3 月 7 日 制定
2018 年 4 月 3 日 改定
2022 年 10 月 1 日 改訂

広沢工業株式会社

取締役社長 西舘信立

4. 環境経営目標

- ・環境経営目的

全社で CO₂削減活動を実施且つ定着させ環境マネジメントシステムの継続的な改善を図り、環境経営を推進します。

- ・環境経営目標

2024 年度：2021 年～2022 年平均 基準年度で CO₂排出量の 1%削減を目指します。

中期目標：2021 年～2022 年平均で CO₂排出量平均以下をめざします。

(注) 二酸化炭素排出量(電力)は東北電力 調整後排出係数 0.471Kg-CO₂/kWh を使用

化石燃料排出量計算式は 2017 年版ガイドラインを使用。

(1) 環境経営目標 (中長期)

取組項目	単位		基準年度 (2021～2022 平均)	2024 年度 (2023 年 9 月～ 2024 年 8 月)	2025 年度 (2024 年 9 月～2025 年 8 月)
			基準年度	今年度	次年度
1.二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	目標	105785	104727	103669
		削減率	-	1%削減	2%削減
① 電力使用量削減	kg-CO ₂	目標	46093	45632	45171
	kWh	目標	136982	135612	134242
		削減率	-	1%削減	2%削減
② 化石燃料使用量削減	kg-CO ₂	目標	52588	52,051	51507
ガソリン	L	目標	1231	1219	1206
軽油	L	目標	994	984	974
灯油	L	目標	16334	16171	16007
		削減率	-	1%削減	2%削減
2.廃棄物排出量の削減	Kg	目標	108402	107318	106234
(再資源化有価物除く)					-
一般廃棄物	Kg	目標	3552	3478	3336
産業廃棄物	Kg	目標	33	32.7	32.4
		削減率	-	1%削減	2%削減
3.水使用量の削減	m ³	目標	299	296	293
		削減率	-	1%削減	2%削減
5. グリーン購入の推進(維持)	点	目標	34	34	34
6. 有害物質の適正管理 (化学物質使用量ゼロ化)	件	目標	当社は適用 外	0 の維持	0 の維持

(2) 本業に係わる環境経営目標

取組項目	単位	基準年度 (2021 年 9 月～2022 年 8 月)		2024 年度 (2023 年 9 月～ 2024 年 8 月)	2025 年度 (2024 年 9 月～2025 年 8 月)
		基準年度		今年度	次年度 (2021～2023 平均)
製造 1G 製造コスト低減 (ショット数改善件数)	件数	12 件以上 (月/1 件)	目標	12 件以上 月/1 件	12 件以上 月/1 件
製造 2G 生産効率改善 (生産性改善件数)	件数	120 (月/10 件)	目標	120 (人員減) 月/10 件	120 (月/10 件)
品質管理 G 流出不良数 不良件数削減	件数	24 件以下 (月/2 件以下)	目標	24 件以下 月/2 件以下	24 件以下 (月/2 件以下)
管理 G 環境改善活動 改善件数を維持する	件数	24 件 (月/2 件)	目標	24 月/2 件	24 (月/2 件)
本者営業G 新規受注件数を上げる	受注%	2024 の平均を目標に設定にする	目標	149	149 -

5.環境経営計画

取組項目	活 動 計 画	活 動 内 容
二酸化炭素 排出量の削減	1) 電力使用量の削減	・冷暖房管理 冷房 28° 暖房 20° 設定 ・空調機エアフィルターの定期清掃 ・製造設備停止時電源 OFF ・PC 待機電力の削減 ・コンプレッサーエア漏れ監視と修理 ・照明機器 LED 化の推進 ・夏場窓からの日射浸入対策
	2) 化学燃料使用量の削減	・社内アイドリング` STOP ・走行ルート of 合理化 ・灯油使用量の管理
廃棄物排出量の削減	1) 一般廃棄物削減	・古紙のリサイクル ・PC データ共有化によるペーパーレス化 ・コピー用紙両面使用/縮小化 ・月別廃棄量の把握 (データ化)
	2) 産業廃棄物削減	・リユース、リサイクル推進 ・廃棄物分別の徹底
水使用量の削減	節水の徹底と監視	・節水ポスター設置による意識の周知 ・週 1 回漏水点検実施 ・トイレタンクレバー`一定位置確認
グリーン購入の推進	エコ製品の購入推進	・事務用品/梱包資材の購入
有害物質の適正管理	有害物の持込み監視	・SDS の収集と管理

節水看板で意識の周知



本業に係わる環境経営計画

取組項目	活 動 計 画	活 動 内 容
製造 1G 製造コスト低減	1) ショット数の効率改善 1 人当たりのショット数 10%UP	・箱へのバラ入れ ・ガイド・傷 NG 部品
	2) 大量不良削減	・抜きミス（カス上がり・欠け） 打痕・傷 6 カ月内に発生した部品をピック UP 調査・対策
	3) 生産稼働率 UP	・新規部品初期流動 ・加工準備 ・段取り/加工の見直し作業手順 ・作業方法の見直し
製造 2G 生産効率 UP	1) 人の動き導線による 効率 up	・作業方法、荷姿見直し
	2) 改善による時間短縮	・生産改善件数 月/11 件
	3) 廃棄物の削減	・古紙、ビニール袋他のリサイクル
品質管理 G 不良数削減	1) 起工前、初品加工前の 工程設定の確認 2) 作業工数改善	・サンプル～加工初ロット 問題点ある無しの確認 ・過去トラ点検など
管理 G 環境改善活動の推進	1) 省電力/節水の監視	・毎週末パトロール実施 ・節電/節水の励行
	2) 廃棄物廃棄量の削減	・月別廃棄量の把握 ・紙類リサイクルの徹底
	3) 環境改善活動	・月/1 人 1 件の改善提案
営業技術 G 客先 受注数量・単価 確認及び見直し	1) 客先数量・単価改善 見直し	・客先受注数量・単価の検討していただき 変更内容を報告
	2) 金型未流動品対応	・客先への金型廃棄・返却対応 ・保管についての保管費用請求

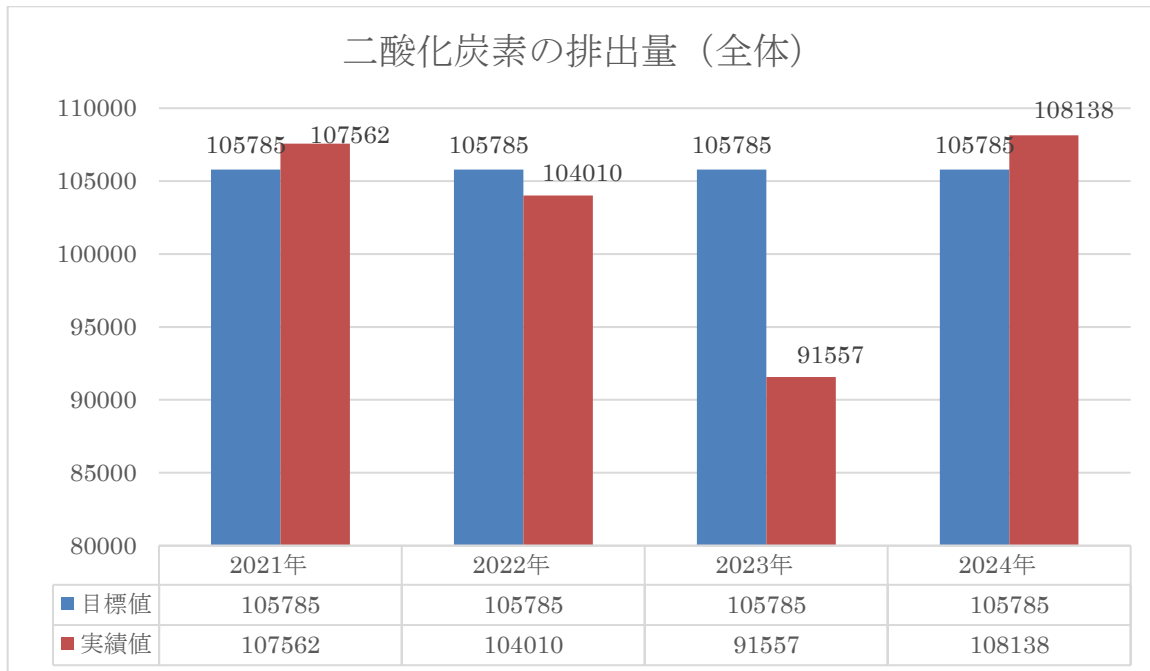
新型コロナ対策



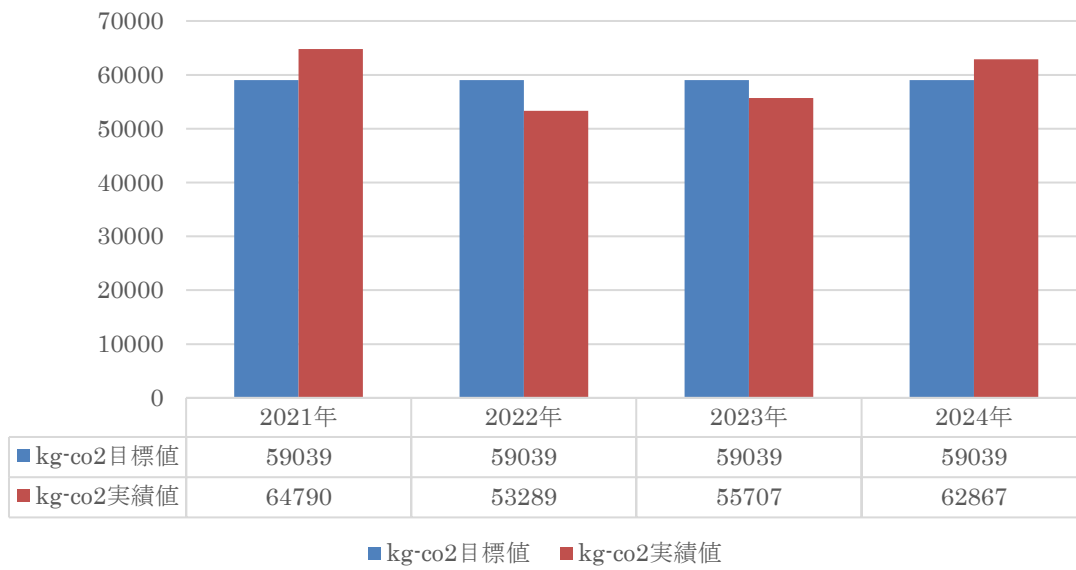
6.環境経営目標に対する実績

取組項目	単位	基準年度 (2021年9月～2022 年8月)		2024年度 (2023年9月～ 2024年8月)	2025年度 (2024年9月～2025 年8月)
		基準年度		今年度	次年度
1.二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	105785	目標	104727	103669
			実績	108138	-
			達成度	3%増	-
			評価	×	-
① 電力使用量削減	kg-CO ₂	59039	目標	53136	47233
			実績	45120	-
			達成度	2.3%減	-
			評価	○	-
	kWh	136982	目標	135612	134242
			実績	133477	-
			達成度	1.5%減	-
			評価	○	-
② 化石燃料使用量削減	kg-CO ₂	46093	目標	41484	36875
			実績	45120	-
			達成度	8%増	-
			評価	×	-
ガソリン	L	1231	目標	1219	1206
			実績	648	-
			達成度	52.6%減	-
			評価	○	-
軽油	L	994	目標	984	974
			実績	2433	-
			達成度	244%増	-
			評価	×	-
灯油	L	16334	目標	16171	16007
			実績	14996	-
			達成度	9%減	-
			評価	○	-
2.廃棄物排出量の削減	Kg	108402	目標	107318	106234
			実績	-	-
			達成度	38.6%減	-
			評価	○	-
一般廃棄物	Kg	3552	目標	3,478	3,336
			実績	4,200	-
			達成度	18%増	-
			評価	×	-
産業廃棄物 (鉄屑再資源有価物除く)	Kg	33	目標	32.7	32.4
			実績	29	-
			達成度	12%減	-
			評価	○	-
3.水使用量の削減	m ³	299	目標	296	293
			実績	322	-
			達成度	7.6%増	-

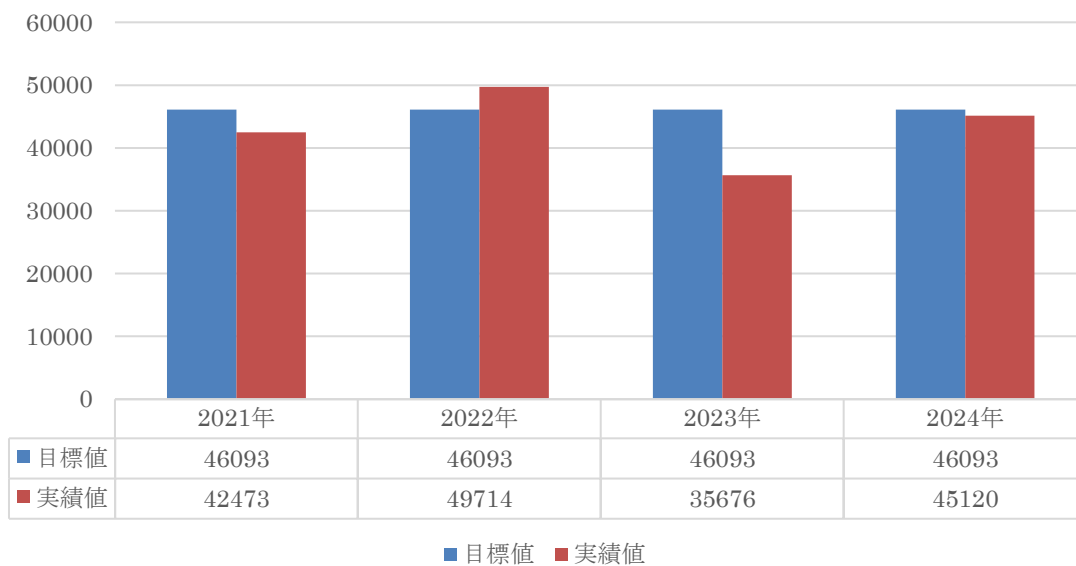
			評価	×	-
4.グリーン購入の推進	点	34	目標	34	34
			実績	34	-
			達成度	100%	-
5.有害物質の適正管理	件数	当社は 適用外	目標	0の維持	0の維持
			実績	0	0
			達成度	±0%	±0%
			評価	○	○



電力kg-co2排出量



化石燃料kg-co2排出量



本業に係わる実績

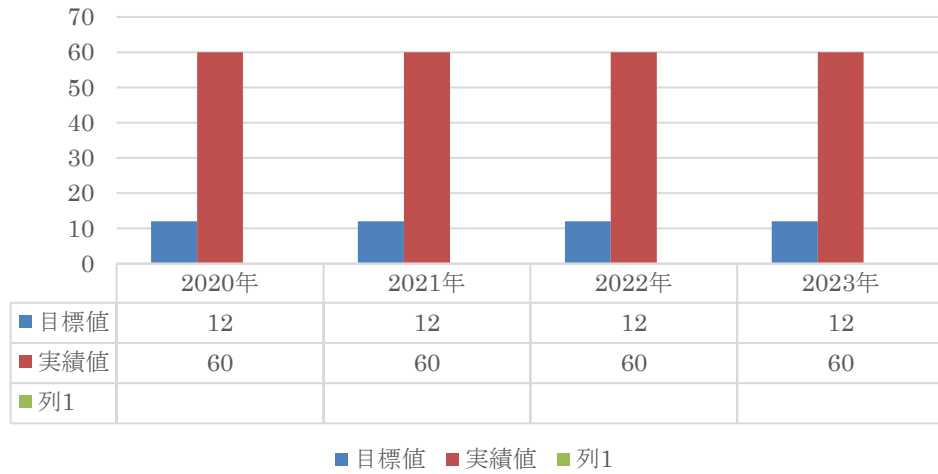
取組項目	単位	基準年度 (2021 年 9 月～2022 年 8 月)		2024 年度 (2023 年 9 月～ 2024 年 8 月)	2025 年度 (2024 年 9 月～2025 年 8 月)
		基準年度		今年度	次年度
製造 1G) 製造コスト低減 (ショット数改善件数)	件数	12 件 (月/1 件)	目標	12 件	12 件
			実績	60 件	-
			達成度	500%	-
			評価	○	-
製造 2G) 生産効率改善 (生産性改善件数)	件数	120 (月/10 件)	目標	120 (月 10 件)	120 (月 10 件)
			実績	125	-
			達成度	4%増	-
			評価	○	-
品質管理 G) 流出不良件数削減	件数	24 件以下 (月/2 件)	目標	24 件以下	24 件以下
			実績	15	-
			達成度	37.5%減	-
			評価	○	-
管理 G) 環境改善活動 (改善活動件数)	件数	24 (月 2 件)	目標	24	24
			実績	24	-
			達成度	上限	-
			評価	○	-
本社営業G) 新規受注件数を上げる	受注%	2024 の平均 を目標に設定 する	目標	149	149
			実績 評価	149 ±0%	-

CO₂排出量削減（輸出用包材）

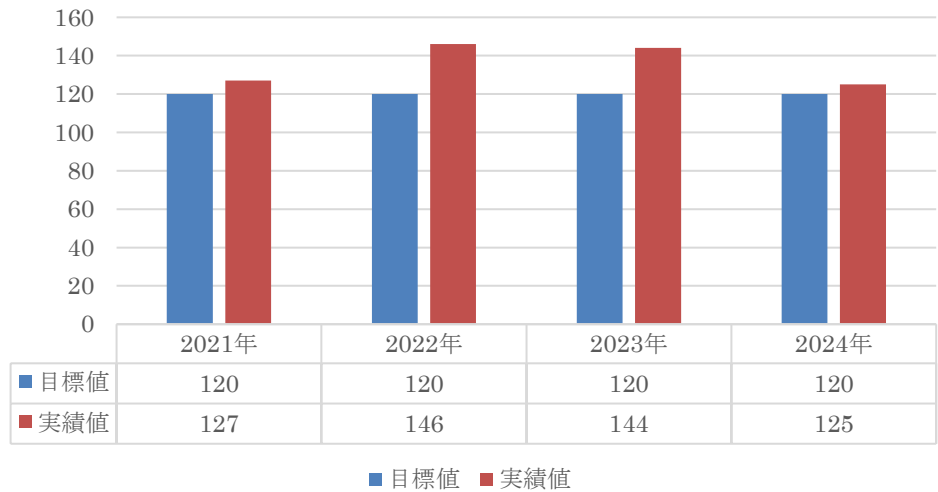
グリーン購入品への切り替え（事務用品）

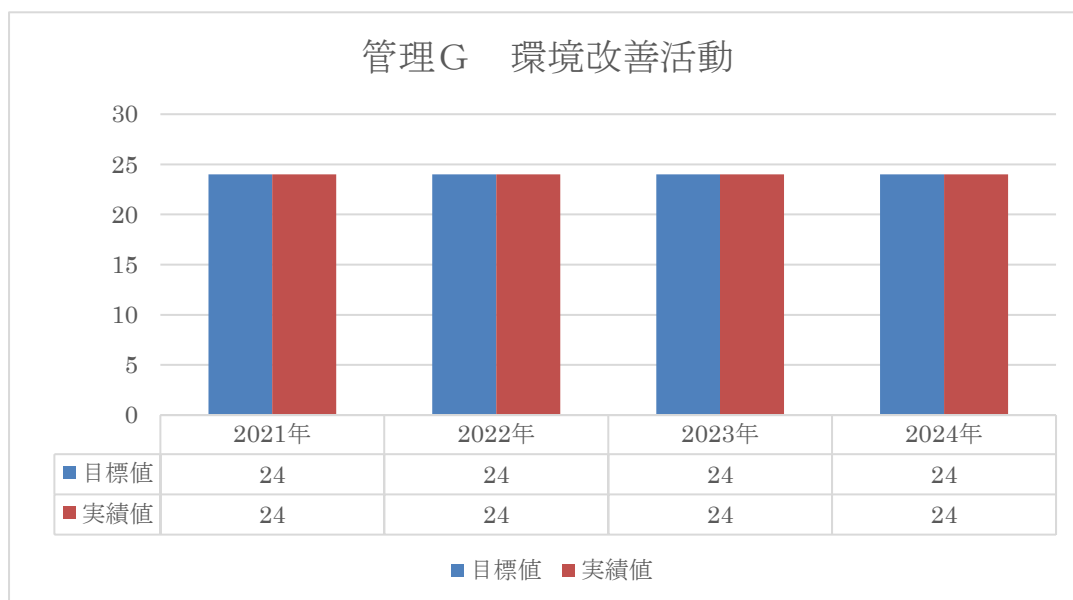
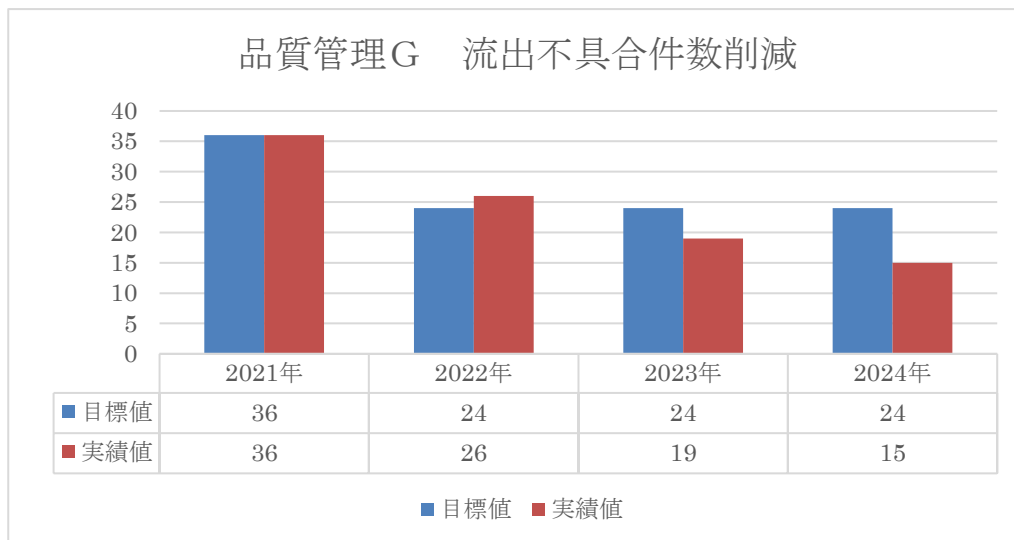


製造1 製造コスト低減



製造ⅡG 生産効率





節電消灯図と看板による啓蒙活動



7.環境経営計画の取組と評価及び今後の取組

(評価 ◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×できなかった)

取組項目	活動内容	2024 年度 *2023 年 9 月～2024 年 8 月 取組結果	評価	次年度の取組
二酸化炭素 排出量の削減	1) 電力使用量の削減			
	・ 冷房温度管理の徹底 冷房 28° に設定	・ 各 G で点検票を作成 消費電力 削減対応が出来ていた	◎	継続
	・ 空調機エアフィルターの定期清掃	・ 定期的に実施	○	継続
	・ 製造設備停止時電源 OFF	・ 一部設備を除き実施	○	継続
	・ PC 待機電力の削減	・ 各部署 ON/OFF を実施	◎	継続
	・ コンプレッサエア漏れ監視と修理	・ 始業/終業時にチェック	◎	継続
	・ 照明機器 LED 化の推進	・ 次年度へ持ち越し	×	継続
	・ 夏場窓から日射浸入対策	・ ブラインド&すだれで対応	◎	継続
	2) 化石燃料使用量の削減			
	・ 社内アイドリング STOP	・ 実施	◎	継続
	・ 走行ルートの合理化	・ 運行管理シートにてチェック	◎	継続
	・ 灯油（暖房）使用量の管理 暖房 20° に設定	・ 設定温度管理を実施しムダな 光熱費を削減できた	○	継続
廃棄物廃棄量 の削減	1) 一般廃棄物削減			
	・ 古紙のリサイクル	・ 購入量の大幅な削減達成	◎	継続
	・ PC データ共有化でのペーパーレス化	・ 昨年同様紙使用量削減	◎	監視
	・ コピー用紙両面使用/縮小化	・ 取扱い可能な書類より対応	○	継続
	・ 月別廃棄量の把握	・ 毎月 EA21 委員会で報告し評価	◎	継続
	2) 産業廃棄物	・ 壊れた木製パレットを修理再使用	◎	継続
	・ リユース、リサイクルの推進	・ 材料キットをメーカーへ返却しリユース	○	継続
水使用量の 削減	・ 廃棄物分別の徹底	・ 分別を実施	○	継続
	節水の徹底と監視			
	・ 節水ポスター設置による意識 の周知	・ 定期的な啓蒙活動実施	◎	継続
グリーン購入 の推進	・ 毎週末漏水点検実施	・ 毎週末点検実施	○	継続
	・ トイレタンクレバー一定位置 の確認	・ 止水確認看板設置し使用後漏水 が無いことを確認	○	継続
有害物質の 適正管理	エコ製品の購入推進 ・ 事務用品/梱包資材の購入	・ 資材購入先へ CO ₂ 削減の取組 みを相談しエコ製品に切替え中	◎	継続
	有害物質の持込み監視 ・ SDS 収集と管理	・ 問題無し	◎	継続

本業に係わる取組と評価及び今後の取組み

取組項目	活動内容	2024 年度 *2023 年 9 月～2024 年 8 月 取組結果	評 価	次年度 の取組
製造 1G 製造コスト 低減	1) 稼働分析 ・ サンプルングチェックを行い 分析し稼働率を改善する	・ サンプルング調査を都度行い グラフを作成効率 UP 進めます	○	継続
	2) ショット数効率改善 ・ 外観の限度を見直し時間を削減する	外観品をピックアップして 次の月に改善をしていきました	◎	継続
	3) 専属作業 この人がいないとできない をなくす	特殊工程 個人限定が多いことが解った 相談し進めてゆく	○	継続
	3 ム改善 (ムリ・ムダ・ムラ) ・ 月/1 人 1 件改善	・ 良い改善が様々出ていました	◎	継続
製造 2G 生産性効率 UP	1) 生産効率 UP 人の動き 導線による作業効率 UP	・ 同一部品の出荷でも人によって 時間差があるため問題点を抽出 しグループ全体でフォローし改 善出来てきた	○	継続
	カシメ 改善による作業効率 UP	・ 治具や梱包改善など 2 カ月に 1 回の改善を進めました	◎	継続
	稼働率と能率 UP 稼働率確認: サンプルング 能率: 見積もりと現状単価比	サンプルングを 1 年で 3 回行い 平均 79%と良かった。 見積もり比 赤 2 点 黒 3 点	◎	継続
	2) 品質改善 納入不具合 作業をやり易く+品質 UP	品質で困っていることを打ち明け 改善出来ました	◎	継続
	3) 廃棄物の削減 廃棄費用の削減	・ 蛍光灯交換・箱サイズ変更など 変わった改善があり良いです	◎	継続
品質管理 G 工数改善 不良数削減	1) 会社の P R ポイント 整理と活用 見積もり件数など	・ サンプル～加工初ロット 問題ある無しの改善	○	継続
	2) 溶接工程の社内導入 手順書作成 トライ 加工効果	・ 社内取組金額が 1 か月 10 万越え となっている全店内製化を目指 す	○	継続
管理 G 環境改善 活動の推進	1) 省電力・節水の監視 ・ 毎週末パトロール実施	・ 毎週末に実施	○	継続
	・ 節電/節水の励行	・ 各種ポスターで掲示し啓蒙	○	継続
	2) 廃棄物・廃棄量の削減 ・ 月別廃棄量の把握	・ 実績を毎月報告し削減を呼掛け	◎	継続
	・ 紙類リサイクルの徹底	・ 年間でコピー用紙 6 束削減	◎	継続
	3) 環境改善活動 ・ 月/1 人 1 件の改善提出	・ 目標達成	◎	監視
営業技術 G 部品数量・単価	1) 既存顧客訪問にて営業活動 1 Q 内 3 社以上の訪問目標	・ 1 Q 3 社が 2 Q 3 社だった 次年度は計 6 社目指す	◎	継続

見直し改善	2)客先提出見積り件数及び受注 結果検証	見積もり 232 点 受注 141 件でした。	○	継続
	3)既存部品価格変更申請見積り 件数と変更承認結果検証	・材料購入の値上げ ロット追加 再建時に反映した。(下期) 材料値下げの情報あり、様子を見 る (上期)	○	継続

8.環境関連法規制等の遵守状況の確認及び評価 の結果、並びに違反、訴訟等の有無

環境関連法規制及び取引先様の要求事項等の遵守状況

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）	遵守評価
廃棄物処理法	一般廃棄物処理運搬業者への委託処理	○
	産業廃棄物（廃油、廃プラ等）産廃収集運搬 処理業者の許可の確認、契約	○
	産業廃棄物マニフェスト交付・保管	○
	産業廃棄物管理表交付等状況報告書の提出	○
	水銀含有保管廃棄物の保管と処理	○
騒音規制法	特定施設の事前届け出（空圧機・プレス機）	○
振動規制法	特定施設の事前届け出（空圧機・プレス機）	○
フロン排出抑制法	簡易点検・定期点検の実施（業務用空調機）	○
家電リサイクル法	特定家庭用機器廃棄物の適切な引渡しと料 金の支払い（エアコン・テレビ・冷蔵庫等）	○
グリーン調達基準の遵守	顧客適合材料の使用及び適合製品の納入と 資料の提出	○

弊社に適用される環境関連法規制等は、「法規制その他要求事項一覧表」に 2024 年 9 月 6 日に取りまとめ、2024 年 10 月 25 日にそれらの順守性を確認しましたが、問題はありませんでした。尚、これらの法規制に対する関係当局からの違反の指摘及び関連する訴訟等は秋田工場創業以来、過去 34 年間ありません。

9. 当社の緊急事態対応訓練の状況 写真

雨水 / 地震避難 対応処置 訓練



灯油の漏れ確認 / 火災発生消火訓練



10. 代表者による全体評価と見直しの結果 (24 年)

(1) 見直しに必要な情報

項目	報告概要 (1/2)				
1) 環境経営目標の達成状況及び環境経営計画の実施及び運用結果	環境目標のテーマ	単位	目標値	実績値	評価
	二酸化炭素排出量削減	kg-CO ₂	104727	108138	※1 ×
	一般廃棄物削減	Kg	3478	4200	※2 ×
	総排水量削減	m ³	296	322	※3 ×
	グリーン購入	アイテム数	34	34	○
	製品の流出不具合件数削減	件数	24 件以下	15	○
	ショット数改善 (プレス工程)	改善件数	12	60	○
	生産性改善 (組立梱包出荷工程)	改善件数	120	125	○
	オフィス環境改善・5S 推進	改善件数	24	24	○
	売上高 (対前年同月売上比率) : 主要な項目	増加比率%	前年を下回らない	23	○
※1 : 事業活動の活発化により軽油使用量が増加した。 ※2 : 事業活動の活発化により包材等の使用量の増加による。 ※3 : 冷風機 2024. 7 の導入 事業活動の活発化作業時間増加による使用量多によるもの。					
2) 法的要求事項及び組織が同意したその他の要求事項の順守を評価した結果	・法要求事項及び組織が同意したその他の要求事項の順守を評価した結果、問題はありませんでした「前頁 No. 8. 参照」。				
3) 外部からの環境に関する苦情や要望	・地域住民、顧客等の利害関係者からの苦情はありません。 ・日本工作油 (株) 様」をから加工油は脱塩素系になるとの連絡があった。				
4) 予防処置及び是正処置の状況	・予防処置 3 件「稼働率が低い傾向がみられるのでチェックする」、「スタッフ 3 休み実施」、「溶接機購入による内製化」を行った・				
5) 内部監査の結果	・当年の内部監査は行いませんでした。				
6) 前回までのマネジメントレビューの結果のフォローアップ状況	・社長指示事項 5 項目に対し、「収支改善」等のうち部品ごとの収益確認システムの構築と検証は出来た、組織不具合の意見や改善に必要な物品の依頼と準備はできた。また、コミュニケーションの活性化を重視した生産活動は今一步、改善活動のレベルアップは出来ていると判断しました。				
7) 環境に関係した法的及びその他の要求事項の変化及び改定情報	・環境法規制は「大気汚染防止法 (解体工事における石綿飛散防止)」を追加した。順守に問題はなかった。				
8) 課題及び機会の変化及び利害関係者のニーズ及び期待の変化	・「もしトランプ氏が大統領になったら」が「本当にトランプ氏が大統領になった」に改定、及び「負荷急増の効率的な対応」は機会に追加した。				
9) 外部審査による指摘事項フォロー結果	・当社業務上の理由により現場審査は約 4 ヶ月遅れの 24 年 4 月 25 日に実施、「推奨事項又は改善すると良い事項」1 件あり「公害防止管理者 (騒音・振動) の資格取得者を育成のこと」、本年の仮申し込みは R6 年 10 月 15 日～R7 年 1 月 27 日までが仮申し込み期間となっている昨年までと異なり e ラーニング講習になっている。				
項目	報告概要 (2/2)				

10) 改善のための提案	・「負荷急増の効率的な対応」は何としてもやり抜きたい。ある程度、実施手段が固まるまえに各部門リーダーとやり取りを行い、手段と納期を決めて各部門リーダー及び従業員の協力をより得られるようにしたい。 ・継続事項ですが、従業員の幸福度向上（満足度を一步進めた考え）を目指して、上層部及び管理職は従業員が当たり前のことを当たり前にできたら「ありがとう」を言う、言われた従業員は存在価値が認められたと感じます。たった5文字ですが、絶大な効力を発揮し、従業員幸福度は向上し、生産性や品質も向上します。更にはコミュニケーション向上になります。
11) 上記の結果により、環境経営方針・環境経営目標および環境経営計画、環境経営システム、その他要素の変更の必要性の提案	・環境経営方針・環境経営目標および環境経営計画、環境経営システム、その他要素の変更の<u>必要性はありません</u>。

項目	社長指示事項(1/2)
1) 環境経営方針	・環境経営方針の変更の必要性はありません。
2) 環境経営目標及び環境経営計画	・2024 年も「収支改善（含む品質向上）」をテーマに取り組んで頂きました。データを元に現場へ働きかけを日常業務的に行い、積極的に効率 UP へのアプローチはほぼ進展しています。 2025 年も同様のテーマといたしますが「収支改善」と「負荷急増への効率的対応は喫緊の課題です」現場担当リーダーが負荷の平均化や部材の購入手配の調整運用、部品毎の収益を確認できる新たなシステム構築を行い、現場活動の検証が即時できるように活動を進めてください。特に負荷急増への対応については現場が動く前のシュミレーションが重要です。リーダー主導の元で徹底的に改善改革を進めてください。調達を含む展開が出来れば理想的です。 ・稼働率を維持して能率向上に着目し改善を進める、製品品質の向上をはかることで顧客の信頼を得ることができます。納期遵守も同じです、全て現場が動く前の準備が重要です。整理、整頓、清掃、挨拶も常に意識して実行してください。
3) 実施体制	・前年から引き続き、経営目標「収支改善」としてしています。 今後の景況は輸出が中心となり大国の考え方や行動によって大きく変化し、課題とチャンスが生まれると考えられます。自分本位の考え方に固執せずに柔軟な考え方と行動によって「課題とチャンスを掴み取る」行動を積極的に研鑽してください。 各リーダーは改善活動（発想・D X 化等）のレベルアップとその効果の表れに期待し苦難を乗り越えていけるようお願いします。
4) 改善のための提案に対する事項について	・提案通りに進めてください。
5) 環境経営システム、その要素の変更の必要性	・環境経営システム、その要素の変更の必要性はありません。